

埋もれた宝を再認識 化石発見地に看板を設置

『イナイリュウの化石』発見地看板除幕式は2月20日、津山町柳津地内で開かれ、化石発見者の鈴木喜三郎氏の孫、鈴木孝也氏など関係者約20人が参列しました。

イナイリュウの化石が発見されてから82年が経過。地域の歴史を後世に伝えるため、軽易な看板のみだった化石発見地に、津山地域振興会が新たな説明看板を設置しました。堀田耕平会長は「化石発見の地を多くの人に知ってもらい、訪れてもらいたいという思いを込め看板を設置しました。今回設置した看板や昨年製作した想像模型なども活用して、地域の活性化につなげていきたい」と地域づくりへの思いを語りました。



看板には、イナイリュウの化石発見の経緯や学術的価値などが記載されています。

雪舞う中の水かぶり 伝統絶やさず火伏せ願う

ユネスコ無形文化遺産の「米川の水かぶり」は2月3日、東和町米川地内で開かれ、わら装束をまとった男衆8人が、家の前に準備された木桶の水を家々の屋根に掛けながら、火伏せを願いました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、見学者にはマスクの着用と検温、手指消毒などを徹底し、伝統行事である火伏せの神事のみを実施。水かぶり保存会の菅原淳一会長は「戦時中も続けてきた神事。新型コロナで途切れさせる訳にはいかないと、どんなかたちでやれるか地域で話し合いを重ねてきた。皆さんの協力で無事開催できてよかった」と話していました。



雪が舞い散る中での開催となった水かぶり。男衆は寒さをもとめせず、地域の防火を祈りました。

共生社会目指し学ぶ パラ選手がリモート講義

市共生社会ホストタウン事業「あすチャレ！ジュニアアカデミー」は2月24日、横山小学校で開かれ、5、6年の児童15人が元バンクーバーパラリンピックアイスホッケー銀メダリスト馬島誠氏から講義を受けました。

共生社会ホストタウン事業は、パラアスリートの生の声を聞くことで障がいへの理解を深め、児童が障がいを自分事として考える機会とするのが目的。佐々木海音君は「障がいのある人が困っている時は、どうすれば助けになれるのか考え、何かできないか積極的に声を掛けられるようになりたい」と障がいがある人と共に生きる社会の実現について理解を深めました。



講師への質問を交えた対話式の講義により、共生社会実現に向けて、自分が明日からできることを考える機会になりました。

臨床研修病院に指定 医師不足解消へ一歩前進

「臨床研修病院指定証交付式」は2月10日、登米市民病院地域医療連携センターで行われ、初期研修医の基幹型臨床研修病院として、宮城県知事から登米市民病院が指定証を交付されました。

医師法では、診療に従事しようとする医師の2年以上の臨床研修を義務化。市民病院は、若い医師確保の仕組みづくりとして、臨床研修病院指定に向けて取り組んできました。松本宏院長は「市民病院は地域医療の中核を担う病院。包括的に患者を診る総合診療の第一歩を踏み出す医師が、濃厚な研修をできるよう頑張りたい」と決意を新たにしました。



市民病院は、令和4年度から初期研修医の受け入れを予定。個人ごとに柔軟な教育ができるよう、指導体制の充実に努めます。

放送開始へ機運向上 朝ドラロゴ公用車に張付

5月17日から放送が始まるNHKの連続テレビ小説「おかえりモネ」の公式番組ロゴステッカーを公用車に張り付けました。

おかえりモネは、登米市を舞台のひとつに、俳優の清原果耶さんが演じるヒロイン「永浦百音」が、天気に向き合う気象予報という仕事を通じて、人々に幸せな未来を届けていく希望の物語です。公式番組ロゴステッカーは、ドラマの放送開始に向けて地域が一体となり、機運を高めていくことを目的に製作。市公用車132台の両側面に1枚ずつ、計264枚のステッカーを張り付けました。



今後は、のぼりやポスターなども製作し、5月に控えた放送開始に向けて、市内を「おかえりモネ」一色に染めていきます。

とめ三昧で生活応援 登米物産品の第1便出発

「とめ産米セットで生活応援～とめ三昧便～出発式」は2月15日、迫庁舎玄関で開かれ、市の物産品1万円相当の詰め合わせ第1便が市外に住む登米市出身の学生たちに向けて発送されました。

とめ三昧便は、新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイト収入が減り、帰省も困難な市出身の生徒・学生と就学援助を受けている世帯の生活を支援する事業。熊谷盛廣市長は「帰省できない学生の皆さんに市内の生産者が作り上げた食材の詰まったとめ三昧便で、古里を思い出していただきたい」とあいさつし、第1便を佐沼郵便局藤田欣也局長へ手渡しました。



生徒・学生応援のとめ三昧便は好評につき、申込期限を3月12日まで延長して対応。3月末までに発送を完了する予定です。